



読書界 7月号

「ミステリー」

『レイクサイド』 東野圭吾

中学受験を控えた4組の家族。彼らは勉強合宿を行うため湖畔の別荘に来ていた。そこで起きたある殺人事件。殺されたのは主人公の愛人だった。犯人は誰なのか。4組の夫婦内で繰り広げられる心理戦。クライマックスに近づくにつれ、事件は思わぬ方向へ動き出していく。果たして事件の真相は？犯人が誰なのか予想しながら読んでみてください。自分の予想が覆される東野圭吾ワールドを是非堪能してみてください。

3-7 齋藤 楓果

『往復書簡』 湊かなえ

小学校教師の真知子が彼女の教え子六人とピクニックに出かけたとき、ある事件が起きた。二十年后、彼女は主人公の大場に、六人に会って彼らの今の様子を伝えてほしいと依頼するが…。手紙のやりとりの中でそれぞれの思いが交わり、明らかになった真実にきっとあなたも驚くはず。書簡形式で書かれた、新感覚のミステリー。三つの短編で構成されているので、忙しいけど本が読みたい！という人にもちょっとした時間で読めておすすめです。

3-7 白崎 薫

『死神の精度』 伊坂幸太郎

話としては一つのジャンルにとどまらずいろんな要素が詰まった短編集の形式だが、彼等のその異質な存在故に、またヒトの持つ感覚故に、読み手は感覚を惑わされるような心地が面白い作品。話の進行は奇妙な存在である彼の仕事に沿って進むが、そこにあるのは“人間は死ぬ”という真理のみ。神は時をかけ、生殺与奪である。ルパンが知的的好奇心で謎を解くように、この異質な存在はミュージックの為に人と関わる。

3-5 紅谷 颯